











「ほらいつもみたいにおねだりしてみろよ、ハメたいんだろ？」

黒芒街の一角、半グレのたまり場で一人の男が白銀の剣聖・シズナに向かって言う。

その瞬間その場にいた者は誰もが想像しただろう、シズナから放たれた斬撃が男を一刀両断する光景を。

しかしシズナは刀を置くと、自分の服に手をかけて胸と股間を露出していき、両手を頭の後ろにやってガニ股の姿勢で腰を突き出した。

露出した乳首には命令した男の耳についているモノとお揃いのピアスが着けられており、下腹部にはタトゥーが彫られていた。

「へへへ…随分素直になったもんだな」

「…そういう風に調教したのはあなたじゃないか」

「もう濡れてるじゃねえか、いつからだ？」

「…知らないよ」

「言わないならハメてやらねえぞ」

「うー……ここに来いって呼び出しがあった時から……」

表の顔は最強の侍衆^^斑鳩vvの副長であり剣聖の二つ名を持つシズナ・レム・ミスルギ。しかし裏では半グレに性奴隷として調教されていた。



「ちょうど暇してたからな、お前でいいと思って呼び出したわ」

ただの都合のいい女扱いに一瞬顔をしかめるシズナ。

しかし、後から抱き着かれ指でアソコを弄られるとその顔はだらしなく崩れてしまう。

「んっ！（悔しいけど、こいつなしじゃもう生きられない……）」

あの【剣の乙女】や【妖精】ですら墮としたこの男がもたらす快感に完全に染まってしまったシズナは逆らえない。

「イケよ、おら」

「あっ、イク、イクッ！」

男の指だけでいとも簡単にイってしまったシズナ。

そしてこの後、シズナは皆との集合場所に何事も無かったかのように現れた。
強化スーツの股間部分に染みを若干残しながら――。

グチュッ♡
グチュッ♡
グチュッ♡

グチュッ♡
グチュッ♡
グチュッ♡



